



NEWS LETTER

The Japan Nursing Ethics Association (JNEA)

日本看護倫理学会第16回年次大会のご案内

テーマ: ソーシャル・ジャスティス～誰ひとり取り残さない社会のために看護職としてできること

会期: 2023年6月3日(土)・4日(日)

会場: 聖路加国際大学 (東京都中央区明石町10番1号)

大会長: 麻原きよみ (聖路加国際大学大学院看護学研究科)

COVID-19パンデミックは私たちの生活、そして看護職の仕事を大きく変えました。世界のどこかで起きたことが私たちの生活と仕事に直結すること、そしてCOVID-19の感染状況に連動して施策や制度が改正されるなど、公衆衛生に責任を負う国や行政の働きも目に見えやすいものとなりました。私たち看護職は、感染症に罹患した人々や社会的に弱い立場にある人々に対して、医療や政策がどのような影響を与えているのか、敏感でなければならないと思います。看護職の仕事は目の前の対象者だけでなく、社会や世界との接点で考える必要があります。

そこで、第16回年次大会のテーマを「ソーシャル・ジャスティス～誰ひとり取り残さない社会のために看護職としてできること」としました。看護と社会との接点からICNの倫理綱領、政治哲学、倫理的組織文化、医療と公衆衛生の倫理を企画しています。また、看護の心を示す看護倫理の表現としての言葉、物語、語りについて、そして聖路加国際病院の実

践の核になる考え方People-Centered Care (PCC) を取り上げました。さらに現場での倫理教育の実際と課題についてのシンポジウムを企画しました。

今回は、現地会場だけでなく、遠方であることや仕事の都合で現地まで足を運べない皆様のためにオンライン会場をご用意し、どちらでも参加できるようハイブリッド開催とする予定です。また、共同発表者が非会員であっても発表できるようにいたしました。より多くの皆様に活発な意見交換や対話の機会を持っていただき、学術的な交流ができることを期待しております。

会員の皆様だけでなく、実践や教育現場の看護職の皆様、他職種の皆様、市民の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



重要な日程のご案内

一般演題募集期間: 2022年12月1日(木)～2023年2月9日(木)

※筆頭発表者は会員もしくは入会手続き中の者。共同発表者は参加登録必須。

前期参加登録期間: 2022年12月1日(木)～2023年5月10日(水)

後期参加登録期間: 2023年5月17日(水)～2023年7月2日(日)

詳細は大会公式ウェブサイトをご覧ください <https://jnea16.yupia.net/>

※日本看護倫理学会年次大会は、認定看護師認定更新審査の自己研鑽ポイントの加算対象(分野共通)です。

後援
東京都看護協会
聖路加国際大学



日本看護倫理学会第15回年次大会開催のご報告 大会長 太田勝正

「困難に立ち向かう看護の道德と倫理」をテーマに2022年5月28、29日に、当学会はじめてのハイブリッド大会(現地開催とweb配信)として第15回年次大会を開催させて頂きました。

内容は5題の教育講演を含む各種講演、シンポジウム、市民公開講座を柱に、50題の演題発表、10件の交流集会で構成し、約200名の現地参加のほかに約500名のオンライン参加を頂きました。まだまだ自由に開催地を訪れるのは難しかったようですが、現地にお越し頂いた参加者からは、久しぶりのナマ(リアル)の学会に満足頂けたとの声も聞いております。倫理は人と人の触れ合いの中に答えを見出していきます。次の大会ではより多くの方の「現地参加」を期待します。関係者ならびに参加者の方々のご理解とご支援に改めて感謝申し上げます。

担当役員からのメッセージコーナー

理事長より(理事長:八代利香)

昨今、様々な学会で会員数が減少していることが報告されており、本学会も70名程の会員数の減少がみられます。会員の特典としては、委員会開催の研修会等への参加、学会誌およびニューズレターの無料購読、論文検索システムの利用、年次大会への会員価格での参加、学会誌や年次大会での発表等があります。本学会は、会員の約半数が医療機関に所属する実践者であり、日頃の看護実践において倫理的な課題を抱えている会員が多く所属しています。倫理観の高い会員の皆様が、入会してよかったと思われる学会であるために、理事会および各委員会での検討を継続しています。

編集委員会より(委員長:鶴若麻理)

学会誌へ、日頃の研究成果のご投稿をありがとうございます。随時投稿、早期公開、まだ世に問うていない研究がありましたら、積極的に本誌に投稿をお願いします。筆頭著者以外は会員に限定しないことに変更後、学会誌への投稿も増加し、かつ看護倫理の研究内容のさらなる広がりを編集委員一同で感じております。また、投稿のオンラインシステムがバージョンアップされ、使い勝手はいかがでしょうか。いつでもご意見をお寄せくださいますよう、お願い致します。今後とも会員の皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

学術活動推進委員会より(委員長:麻原きよみ)

委員会主催の第15回大会での交流集会「COVID-19に負けない！倫理的な職場環境」で用いた資料を教材としてまとめ、学会ホームページのマイページにアップしました。マイページには委員会ですらまで作成した看護倫理学習のための教材をアップしていますので、職場での学習、個人学習などにご活用ください。今後、委員会では第16回大会での交流集会等の企画を検討していく予定です。

課題検討委員会より(委員長:小野美喜)

看護職の倫理的問題を情報収集し検討しています。先日、療養先の身体拘束処置に対するご家族のご心痛と相談が届きました。本学会の身体拘束予防ガイドライン普及が大事と感じた相談でした。皆様の周りではいかがでしょうか。また、小規模病院の看護職が研究倫理審査を受けにくいという情報を受けて調べた結果、多くの都道府県看護協会は、その対策として審査委員会を設置していました。お困りの方は相談してみてください。

広報委員会より(委員長:前田樹海)

今回も無事にニューズレター(NL)が発行できてほっとしています。今年度は学会創立以来はじめての公式ウ

ェブサイトのリニューアルを行いました。主なポイントは、暗号化通信対応、スマホやタブレットでも閲覧しやすいレスポンシブデザイン、メニューの整理、英語版ページのリリースなどです。このNLが届くころには新たなサイトでみなさまをお迎えできると思います。ぜひ新しいJNEA.NETにお立ち寄りください。



庶務より(担当理事:山口さおり)

令和4年10月末現在、本学会の会員数は894名（医療機関46.4%、教育機関50.2%、その他3.4%）です。会員の皆様方におかれましては、学会運営に変わらぬご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。本学会は、より多くの実践者・研究者・教育者が集い、看護倫理の知を集積する場となるよう、入会時の要件を見直しました。看護倫理を語り合える身近な学会として、ぜひ関心をお持ちの皆様にご紹介いただければ幸いです。

会計より(担当理事:足立智孝)

2021年度は450万円を超える大幅な黒字決算となりました。主な要因は、第14回年次大会の収益によるものと、コロナ禍で各種会議がオンラインで実施されたため、交通費等の経費が削減されたためです。一方で2022年度予算は、学会ホームページの全面的な刷新のための高額費用を計上したため、290万円を超える赤字予算となっています。学会員へのサービス向上のために必要な支出として、ご理解を賜りたく、宜しくお願いたします。

監事より(監事:青山ヒフミ、小西恵美子)

監事って何をする人なのか、わかりにくいですよ。学会の総会の際にも、端っこの方で地味に座っています。ですが、実は大きな役割があるのです。特に学会が法人化した後は、それまでの会計監査だけでなく、学会が適切に運営されているかも常に見ていきます。ですので、理事会は監事が出席できない場合は開けません。日本看護倫理学会がこれからも安定して、学会としての役割を果たし続けるためのお目付け役、それが監事です。

選挙管理委員会より(委員長:中村充浩)

現在、一般社団法人となって2回目となる代議員選挙・役員候補者選挙が行われています。選挙管理委員会では、選挙が滞りなく、公平、公正に行われるように、選挙前から打ち合わせを重ねて準備を進めてきました。特に、投票率向上への取り組みとして、投票期間中であれば時間や場所を問わずに投票できるweb投票システムを採用し、選挙権を持つ会員のみなさまが投票しやすい環境作りや広報などに力を入れています。

MedicalFinder学会員特別アクセス権のご案内

本学会のウェブサイトjnea.netでは、会員サービスの一環として2013年11月1日よりMedicalFinderの提供を行っております。研究・教育活動にぜひお役立て下さい。なお、本サービスのご利用にはIDおよびパスワードが必要で、1年ごとに更新されます。2023年用のID/パスワードは以下の通りです。

ID = ****、パスワード = **** (2022年12月1日から2023年12月31日まで有効)